

## 2009 年度 関西学院聖和幼稚園 学校評価を終えて

聖和大学附属聖和幼稚園は、2009 年度より聖和大学と関西学院の法人合併に伴い学校法人関西学院聖和幼稚園と名称変更し、新たな歩みを始めました。そこで、今年度より学校評価においても従来の単独園による評価から、関西学院の初等部・中学部・高等部と連携をとって実施いたしました。評価項目は、「学校評価ガイドライン」に示された 12 項目より「教育課程・指導」、「保健管理」、「安全管理」、「研修（資質向上の取組）」、「子育て支援」の 5 項目を選びました。

各項目について教員と保護者にアンケート調査を行い、客観性をもって保育内容、園運営について省察することができました。

結果、教員が思い入れをしている聖和幼稚園の子どもを中心に据えたキリスト教保育に対して、保護者の皆様にも好意的に評価していただいていることが確認できました。

また、今後の課題も明確になりましたので、より良い改善方法を見出して誠実に取り組んでいきたいと考えております。さらに、今回の学校評価を公にすることによって、より聖和幼稚園への信頼を高めていただけるように努力、邁進してゆく所存です。よろしく願いいたします。

2010 年 3 月 26 日

関西学院聖和幼稚園  
園長 出原 大

## 【教育課程・指導】

### 現状の説明

#### キリスト教保育の根幹である愛情を感じられる教育の実践

本園では、神から命・個性を与えられている子どもたち一人ひとりを大事に守り育てていくキリスト教保育を行っている。保育者も、キリスト教保育には自負があり、その思いが表現されている。

#### 各領域に主体的に取り組む姿勢を培う援助

本園の教育課程3つの柱の1つに、「子ども自身が何事にも意欲的・主体的に取り組む自律的な精神を培うとともに、お互いの個性の相違や多様性を認めながら育ち合うことのできる思いやりの心を育む。」と掲げている。そして、保育者は、子どもたちの興味・関心が高まり、意欲的になることを願って一人ひとりに添った援助を努めている。

#### 自然教育の実践重視

1980年代後半より幼稚園周辺である甲東、上ヶ原地区も他の都市部周辺地域と同じように、宅地造成、自動車社会の興隆などによって戸外での遊び場が減少してきた。殊にこの影響で、子どもたちの自然環境での遊び場は激減した。人は自然の一員という立場で自然教育の重要性を感じている本園では、人・子どもは自然環境の適者として、その中で遊ぶことにより心身の健康・恒常性を保つと考え、また、子どもは幼少期の感覚器・五感が一番鋭敏かつ発達する時期に、自然環境にて自然物に触れて生きる力の源泉が育まれていくと考えている。そこで、1980年代後半よりこの子どもたちの自然離れを鑑みて園庭・自然環境を見直し、子どもたちが身近に触れられる様に樹木・草本類を多量に植栽した（植物環境を充実させると昆虫、野鳥などが多く集まる生態系が形成されていった）。

20数年に亘るこの取り組みにより、現在は、園内の豊かな自然環境の中で子どもたちは、仲間と共に大いに自然環境に触れて元気に、また、感性もしっかりと育まれてきていることが確認できている。

### 評価・分析（アンケート結果を含む）

#### キリスト教保育の根幹である愛情を感じられる教育の実践

アンケートでは、キリスト教保育の保護者の評価は98%が肯定的であり、「一人ひとりが受け止められている」と認めた数値が結果に表れている。

#### 各領域に主体的に取り組む姿勢を培う援助

保育者の援助が功を奏して、本年度も子どもたち一人ひとりのレベルで、園生活の中で自主的、意欲的に活動する姿が確認できた。

この子どもたちの様子、いきいきとした表情、感想、保育者との懇談等により、96%もの保護者が肯定的に回答するほど幼稚園を信頼し、高く評価してくれている。

#### 自然教育の実践重視

保護者アンケートにおいて「子どもたちが身近に自然環境に触れられるようにして、感性が育まれるように保育している」という質問に、ほぼ全員が肯定的に回答するなど、本園の豊かな自然環境における保育を望み、そして、入園後も子どもたちが、幼稚園の園庭でいきいきと遊び、元気・健康に育ち、五感を十分に使い感性が育まれていることを認めた結果がアンケートに出ている。

## 改善の具体的方策

キリスト教保育の根幹である愛情を感じられる教育の実践

現在実践しているキリスト教保育の根幹を忘れず、子どもたち一人ひとりの心に添った愛情深い実践を心掛けたいと考えている。

各領域に主体的に取り組む姿勢を培う援助

今後もこの信頼関係を大事に、子どもたち一人ひとりが主体的に活動できる保育をしていきたいと思っている。

自然教育の実践重視

今後もこの生きる力に繋がる自然環境作りを充実させていき、援助においても一人ひとりの子どもたちに共感しつつ自然体験を重視していきたいと考えている。

## 【保健管理】

### 現状の説明

#### 日常の健康管理、疾病予防の取組

園側は、年度初めに子どもたちの保護者に生活調査表（年度ごとに記入のもの）の記入をお願いし、一人ひとりの事前の健康状態の把握に努めている。

保育者は、子どもたちが登園してくると一人ひとり視診を行い、保育中も適宜心身の健康状態を見ながら保育を行うようにしている。また、保護者とも、登降園の際に子どもの健康状態について連携をとり、健康管理を行うようにしている。

#### 園医、看護師との連携による健康管理、疾病予防の取組

関西学院との合併により、聖和幼稚園は、新法人の下、新しい園医、看護師を迎えることができた。適宜、丁寧な情報提供と指導をしてくださる園医によって、今期、新型インフルエンザの流行時などにおいても混乱することなく園運営がなされた。

看護師との連携においては、当初双方の不慣れなところから戸惑うこともあったが、園医との相談によりスムーズな連絡がとれるようになった。園医は、本園保護者会を対象にAEDの使用について、心肺蘇生法、救急法等の講習会を1学期に実施している。

また、今年度は、「園医よりのおすすめ」、「新型インフルエンザについて」、「予防接種について」という各テーマで園医からの医療情報を園の便りとして保護者に配付した。また、3学期より園医の医院にて配布されている院内月刊誌を園内掲示板に貼り出し、情報を公開している。

#### 家庭、地域、保健・医療機関との連携による健康増進

本年度は、新型インフルエンザの流行などがあり、西宮市教育委員会、兵庫県健康増進課よりの予防、対処情報が伝達され、園内の掲示板にてそれらの情報を公開した。口頭でのアナウンスにより掲示の告知をたびたび行ってきたが、これも徹底できていなかった。

### 評価・分析（アンケート結果を含む）

#### 日常の健康管理、疾病予防の取組

アンケート結果より、「幼稚園は、子どもたちの心身の健康状態を把握して保育している」という質問に保護者の95%が肯定的に回答していることから、一定の評価が得られているといえる。

#### 園医、看護師との連携による健康管理、疾病予防の取組

今回、保護者のアンケートにおいて本項目の「幼稚園は、園医、看護師と連携して子どもたちの健康管理、疾病予防に努めている」という質問で、平均値が3.2(肯定的な回答が83%)と低くなっていることは、掲示等による情報公開が周知されていないことに起因していると考えられる。

#### 家庭、地域、保健・医療機関との連携による健康増進

保護者のアンケートにおいて本項目の「幼稚園は、医療専門機関からの情報公開・伝達等をしている」という質問で平均値が2.9(肯定的な回答が82%)と低くなっていることは、掲示による情報公開が周知されていないことに起因していると考えられる。

## 改善の具体的方策

### 日常の健康管理、疾病予防の取組

今後もこの体制を維持、強化して臨みたい。

### 園医、看護師との連携による健康管理、疾病予防の取組

今後も園長・園医・看護師の3者間でコミュニケーションをしっかりとって、園内全体の医療システムの確立に努めたい。本項目の保護者アンケートの評価が低い状況を解消するために、口頭での伝達、および「ようちえんネット」(教職員・保護者を対象としたインターネット情報網)にて、公開している情報についての周知を図りたい。

### 家庭、地域、保健・医療機関との連携による健康増進

次年度は、この状況を解消するために「ようちえんネット」(教職員・保護者を対象としたインターネット情報網)にて公開している情報についての連絡や資料配付などにより周知を図りたい。

## 【安全管理】

### 現状の説明

#### 事故や緊急事態発生時の適切な対応

本園は、現時点で事故、緊急事態に備えて以下の対応を考えている。県警ホットラインを職員室に設置し、緊急時にはすぐに連絡ができるようにしている。また、キャンパスを総括管理する聖和キャンパス事務室と常に連絡がとれる状態にあり、適切な指示を仰いで対応するようにしている。目に見えるところでは、警備員が定期的に幼稚園を含めた西宮聖和キャンパス内を巡回している。駐車場内においても、登降園時は警備員が立ち安全に配慮している。教諭もまた登降園時には幼稚園の正門に立ち、子どもたち、保護者の安全を確認している。

#### 園内環境の安全点検

本園では、毎朝保育前に保育者によって園舎・園庭の安全確認を行っている。特に園庭は、保育者がグループに分かれて小屋や遊具の安全点検、及び不審物、不審者の存在がないかを確認している。また、危険な箇所、安全に欠ける環境に関しては、西宮聖和キャンパス事務室（法人）と相談して早急に対応している。

#### 教職員、法人、専門機関との連携による危機管理マニュアルの作成

本園では、上記2項目のように安全管理に務めてきている。しかし、大きな災害、事故、事件等の対応に関しては、法人の緊急災害ハンドブック等に従い、また、指示を仰いできた経緯があり、現在、独自の危機管理マニュアルを有していない。

### 評価・分析（アンケート結果を含む）

#### 事故や緊急事態発生時の適切な対応

この項目でのアンケート結果によると、教職員の92%が肯定的な回答をするほど対応意識は高く、また、保護者も97%が肯定的な回答をしていることから一定の信頼を得ているといえる。

#### 園内環境の安全点検

教職員によるこの項目でのアンケート結果の数値が満点なのは、子どもたち、保護者の安全を第一に考えている意識の表れであると考えられる。

保護者のアンケート結果が教職員と比較すると、わずかながら差異がある(肯定的な回答の割合は94%)。これは、教職員と保護者との安全基準の考え方の差であると推察する。

#### 教職員、法人、専門機関との連携による危機管理マニュアルの作成

本園独自の危機管理マニュアルを有していないことからか、教職員のアンケート結果は相対的に低くなっている。

## 改善の具体的方策

### 事故や緊急事態発生時の適切な対応

本園では、今後も危機管理意識を高めて備えていきたいと考えている。教職員自身が、様々な緊急事態を想定し、どのように行動すべきなのかを考える機会を設けていく。

### 園内環境の安全点検

今後も安全を第一に考えている意識をさらに高めて、安全な環境の保持に努めていきたい。

評価・分析から教職員と保護者との安全基準の考え方の差であると推察できることから、本園の安全管理の考え方を保護者に理解していただく機会が必要である。

### 教職員、法人、専門機関との連携による危機管理マニュアルの作成

教職員、法人、専門機関との連携によって本園独自の危機管理マニュアルを 2010 年度 1 学期中に作成し、今後の安全対策を万全にする意向である。

## 【研修（資質向上の取組）】

### 現状の説明

園内の研修の課題の設定

保育研究の継続的实施など指導改善の取組

園外での研修参加

本園では、教育課程を作成し、年間、月間、週間、日の指導計画を立てて保育している。そして、園内にて週に1度教師会を開き、日々の保育を教諭全員にて省察する時を持っている。また、各クラス担任、補助教諭は、日々保育記録を取り、省察して次の保育に生かす準備をしている。

研修においては、園内にて教師会中に保育理念、保育内容についてテーマを設定して定期的に学びの時間を設けている。園外の研修にも積極的に参加しており、兵庫県私立幼稚園連合会、西宮市私立幼稚園連合会、キリスト教保育連盟、他保育関連企業、団体主催の研修にて保育理念、保育内容の向上のための研鑽をしている。これ以外にも、法人内にて開かれる保育・教育及び教諭として資質が向上される内容の研修には積極的に参加している。

### 評価・分析（アンケート結果を含む）

園内の研修の課題の設定

保育研究の継続的实施など指導改善の取組

園外での研修参加

教職員の評価では、園内の研修の課題の設定の項目で平均値が3.4、園外での研修参加の項目で平均値が3.4と、他の項目と比べて低くなっている。

### 改善の具体的方策

園内の研修の課題の設定

保育研究の継続的实施など指導改善の取組

園外での研修参加

研修については、園として長期計画、短期計画を立てる。研究については、教諭一人ひとりが研究分野・テーマを明示する。



## 【子育て支援】

### 現状の説明

#### 園庭開放

本園では、近隣の子どもたちの遊び場事情を鑑みて、朝と保育後の園庭開放を行っている。朝は平日のほぼ全日、8時30分から10時頃まで、園の行事がある日や悪天候の場合を除き、園児の弟妹及び近隣の未就園児を対象として開放しており、毎朝、本園正門にて告知している。午後は、月・木は午前保育（11時50分降園）の後に1時間、保護者監督の下に園児と園児の兄弟姉妹が園庭にて遊ぶことができる。火・水・金は午後保育（13時30分）の後、同じ条件で17:00まで園庭開放が成されている。

#### 子育て・発達相談

本園では、登降園時保護者が送迎をすることになっているので、保育者と保護者が直接に顔を合わせて話し合いの時間が持てるようになっている（登園時は連絡事項程度）。保育者は、この時間に保育中の子どもの様子を伝えたり、家庭での様子について伺ったりと、保護者と子育て、教育に関するコミュニケーションをとっている。この連携は、いい子育て、教育の鍵となる事柄として重要視している。

現在、保護者からの申し入れがあれば、担任、補助教諭、園長と子育て・発達相談できるようにしている。また、発達相談においては、専門的な視点で相談できる臨床心理士に指導をお願いしており、保護者からの希望があれば園を仲介して相談することが可能になっている（臨床心理士は、月2回来園）。

### 評価・分析（アンケート結果を含む）

#### 園庭開放

アンケート結果では、教職員は平均値が3.9(全員が肯定的な回答)と高く評価しており、また、保護者も平均値が3.3(93%が肯定的回答)とこの園庭開放の注目度の高さをうかがい知ることができる。

教職員と保護者が高評価している要因は、園が考えている保育後の子ども過ごし方と保護者の保育後の外遊び環境のニーズが一致したからであると推察できる。

#### 子育て・発達相談

保護者のアンケート結果は、平均値が3.1(肯定的な回答が84%)に留まっている。子育て・発達相談において気楽に相談できる窓口をはっきりと示していないことが原因と考えられる。また、教職員の回答(100%が肯定的回答)との差異は、教員が把握できていない子育て・発達相談があることが要因であると推察できる。

### 改善の具体的方策

#### 園庭開放

今後も近隣の子どもたちの遊び場事情を考えて園庭開放を継続し、預かり保育を実施していく。

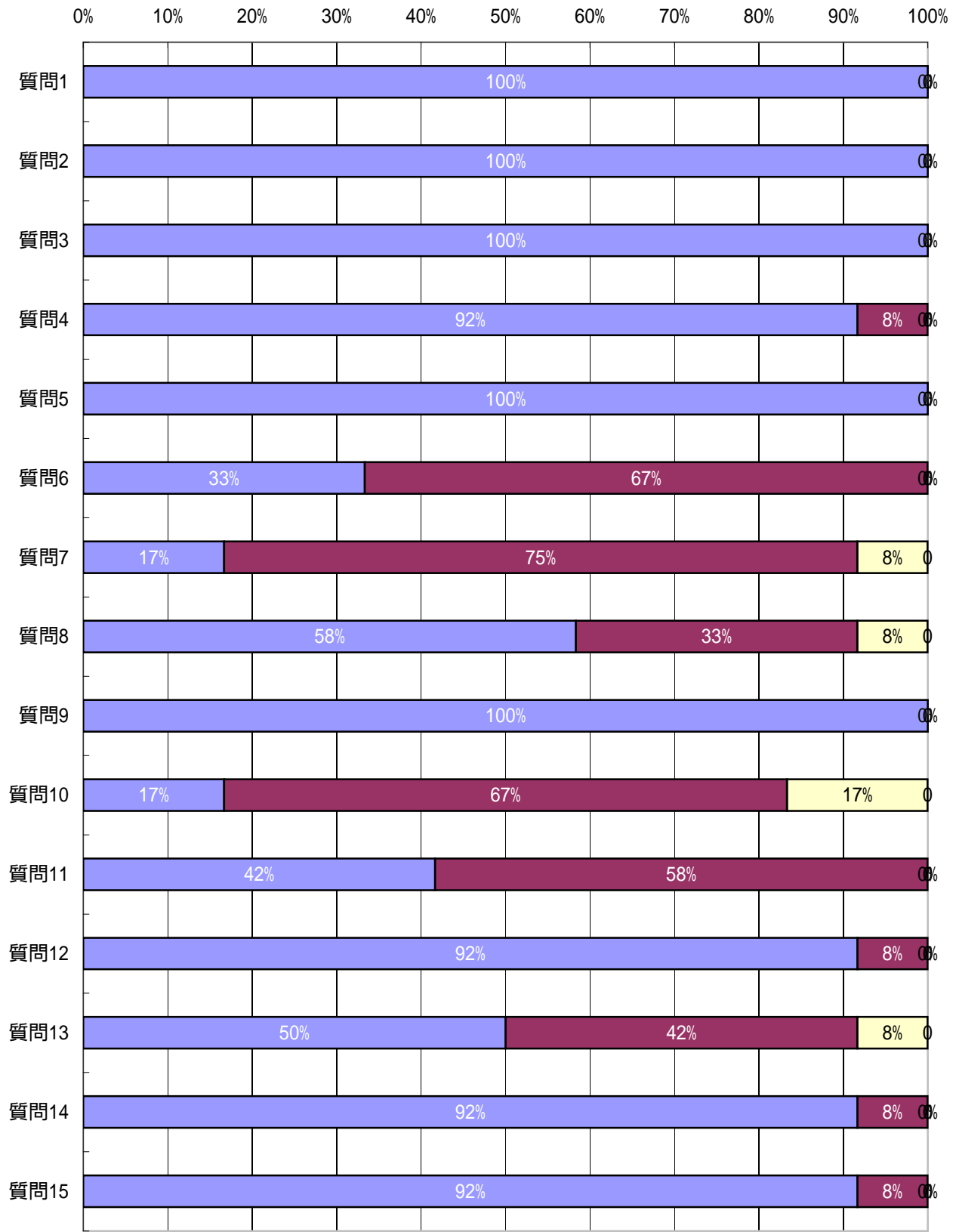
#### 子育て・発達相談

今後、相談日や相談窓口について公表し、保護者が発達相談しやすい環境を整えていく。

関西学院聖和幼稚園 2009年度学校評価 実施項目別アンケート結果一覧表

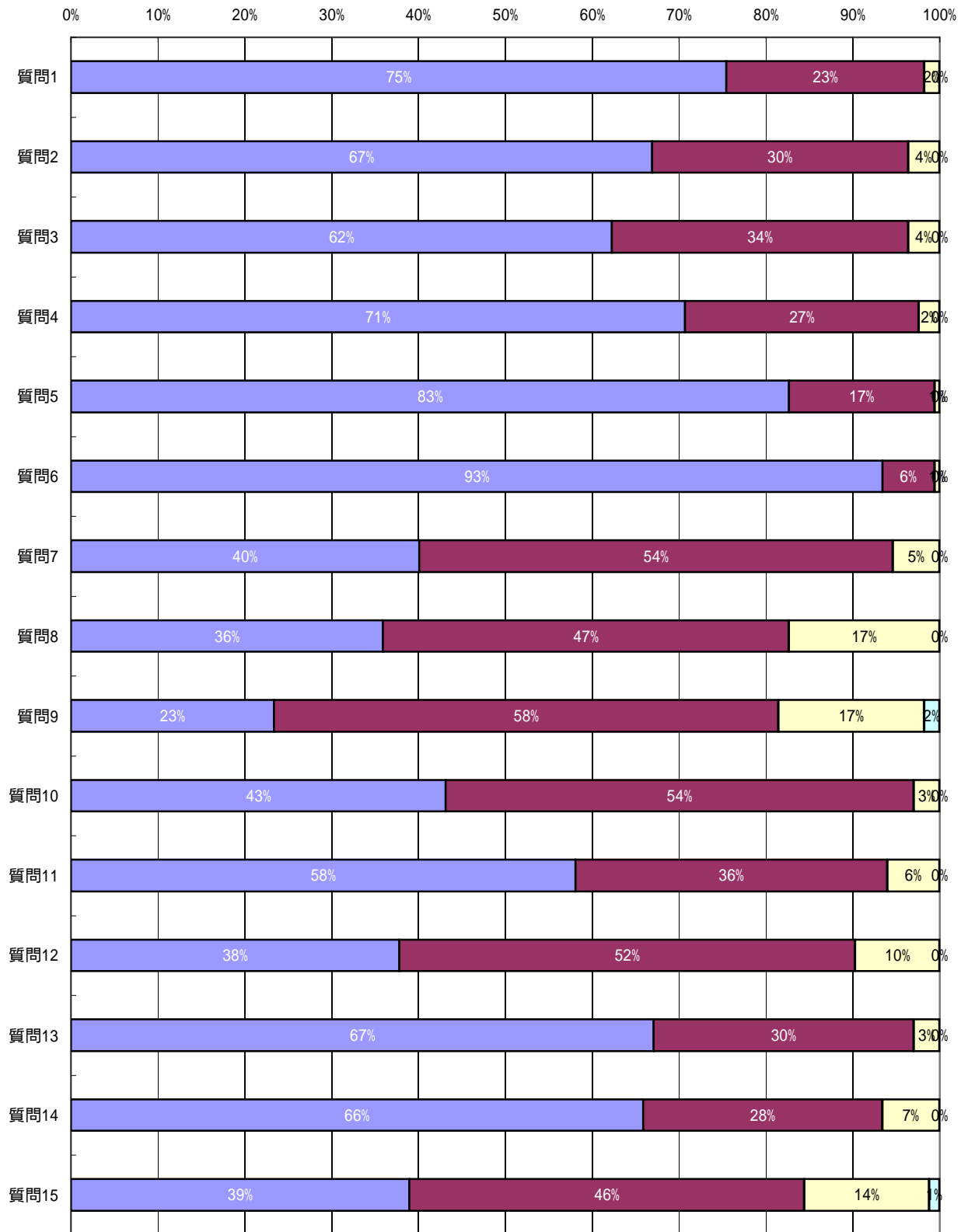
共通 / 独自	大項目	小項目	目標	アンケート			
				教職員用	平均点	保護者用	平均点
共通 / 独自	幼稚園全般 (追加項目)					1. 子どもは、幼稚園に行くのが楽しいと感じている。 2. 幼稚園の教育には満足している。	3.7 3.4
		1. 教育課程・指導	キリスト教保育の根幹である愛情を感じられる教育の実践	一人ひとりの幼児の発達・個性を把握して、子どもたちが愛されていると感じられる保育をする。	1. 幼稚園は、一人ひとりの幼児の発達・個性を把握し、愛情を注いで保育している。	4.0	3. 幼稚園は、子どもたち一人ひとりを受け止めて保育している。
共通	1. 教育課程・指導	各領域に主体的に取り組む姿勢を培う援助	幼児が自律的な精神を養い、何事においても意欲的に取り組めるように援助する。	2. 幼稚園は、一人ひとりの幼児の心に添って興味・感心を高め、何事にも自主的・意欲的になるように保育している。	4.0	4. 幼稚園は、子どもたちの意欲や主体性を育くむ保育をしている。	3.6
		自然教育の実践重視	幼児が幼稚園の自然環境の中で、存分に遊ぶことで健康な心身を養うように環境を整え、援助を行う。 幼児が自然物に触れて豊かに感性を育むように環境を整え、援助を行う。	3. 幼稚園は、幼児の心身の健康を考えて適切な自然環境を整え、援助を行っている。 4. 教員は、幼児の自然体験に共感している。	4.0 3.9	5. 幼稚園は、子どもたちの心身の健康を考えて自然環境を備えている。 6. 幼稚園は、子どもたちが身近に自然環境に触れられるようにして、感性が育まれるように保育している。	3.7 3.9
共通	2. 保健管理	日常の健康管理、疾病予防の取組	幼児一人ひとりの健康状態を把握し、また、疾病予防の指導を行う。	5. 教員は、幼児一人ひとりの心身の健康状態を把握して保育をしている。	4.0	7. 幼稚園は、子どもたちの心身の健康状態を把握して保育している。	3.3
		園医、看護師との連携による健康管理、疾病予防の取組	保育者では対応できない怪我、疾病等について園医、看護師に相談して最善の対応をする。	6. 教員は、幼児一人ひとりの心身の健康状態を把握する中で、その対応について専門の知識を持つ園医、看護師と連携して対応している。	3.3	8. 幼稚園は、園医、看護師と連携して子どもたちの健康管理、疾病予防に努めている。	3.2
		家庭、地域、保健・医療機関との連携による健康増進	流行性の疾病等について専門機関と連携をして、正確な情報を得て、園児・保護者に対応する。	7. 幼稚園は、幼児の健康のために、保健・医療の専門知識を専門機関から進んで得ている。	3.1	9. 幼稚園は、医療専門機関からの情報公開・伝達等をしている。	2.9
共通	3. 安全管理	事故や緊急事態発生時の適切な対応	園に係る事故や緊急事態に対応できる備えをする。	8. 幼稚園は、事故、緊急事態に備えて、対応方法を確立している。	3.5	10. 幼稚園は、事故や緊急事態に適切な対応をしている。	3.4
		園内環境の安全点検	子どもたちの活動について把握し、その活動範囲の安全点検を確実に行う。	9. 幼稚園は、毎日保育前に保育環境の安全点検をしている。	4.0	11. 幼稚園は、子どもたちの安全を考えて遊具等の環境を整えている。	3.4
		教職員、法人、専門機関との連携による危機管理マニュアルの作成	幼稚園の危機管理マニュアルを、教職員、法人、専門機関と連携して作成する。	10. 幼稚園は、危機管理意識を高めて園内・法人内の教職員と、共に連携して適切に危機管理マニュアルを作成している。	3.0	12. 法人・幼稚園は、危機管理意識を持ち、マニュアルをもって子どもたちの安全を守っている。	3.2
共通	4. 研修（資質向上の取組）	園内の研修の課題の設定	現在の保育における課題を見出し、研修の重点目標を設定する。	11. 教員は、個人及び園の研修課題を見出して研修の目標を設定している。	3.4	13. 幼稚園の先生は、保育の質向上のために努力している。	3.6
		保育研究の継続的実施など指導改善の取組	今まで続けてきた保育研究について精査し、より高次で実践する。	12. 教員は、常に園の保育内容の省察を行い、より子どもたちに必要な指導内容について研鑽している。	3.9		
		園外での研修参加	園内のみならず、園外に亘って広い分野で見識、実践力を高める研修に参加して研鑽する。	13. 教員は、個人で広い視野を持ち、園外での研修に努めている。	3.4		
独自	子育て支援	園庭開放	近隣子ども社会の自然環境における遊び事情を鑑み、園庭開放を行う。	14. 幼稚園は、近隣子ども社会の自然環境における遊び事情を把握して、適切な園庭環境を整えて園庭開放を行っている。	3.9	14. 幼稚園は、子どもたちの遊び事情を考慮して園庭開放を行っている。	3.3
		子育て・発達相談	子育て・家庭教育における相談、発達相談随時受けられる体制を整える。	15. 保護者と連携し、より良い子育て・家庭教育ができるように努めている。	3.9	15. 幼稚園は、いつでも子育て・発達相談ができるように努めている。	3.1
		預かり保育					

学校評価アンケート集計結果  
(幼稚園・教員)



- 回答番号1: 強く思う(4点)
- 回答番号2: どちらかといえば思う(3点)
- 回答番号3: あまりそう思わない(2点)
- 回答番号4: まったくそう思わない(1点)

学校評価アンケート集計結果  
(幼稚園・保護者)



■ 回答番号1: 強くそう思う(4点)
 ■ 回答番号2: どちらかといえばそう思う(3点)
 ■ 回答番号3: あまりそう思わない(2点)
 ■ 回答番号4: まったくそう思わない(1点)